

監訳にあたって

中国陶瓷の全貌を概観した大著に 最新の知見を織り込んだ決定版

大阪市立東洋陶磁美術館館長 出川哲朗

中国の陶磁器は、時に生活になくはならぬ器物として文化史によりそい、時に歴代の皇帝の宝物として美術史の中で燦然と輝いている。また副葬品として、長き眠りにつき、再び姿を現したのもあれば、貿易陶瓷として海外にもたらされ、日本をはじめとして、各地で大切に扱われてきたものもある。新石器時代から現代にいたるまで、途切れることのない中国磁の歴史は世界に類をみないものであり、その広大な国土と悠久の歴史の中で培われた陶磁器の全貌を概論することは、尋常一様の努力では不可能であろう。

二〇〇五年に出版された大著『中国陶磁史』は中国陶磁研究の権威として著名な葉喆民氏（一九二四～二〇一八）が長年の研究蓄積をもとに著したものである。二〇一一年には増補改訂版が出版され、日本語版はこの増補改訂版を底本としている。

二〇世紀後半から二一世紀にかけて中国陶磁研究は飛躍的に進展し、次々と新発見・新知見が相次いでいた。今回、日本語に翻訳するにあたっては、著者から了解を得た上で、詳細な訳注などを加えてそれら新知見を織り込むとともに、挿図の一部を、出土地の明らかな作品や評価の高い世界的名品とされる作品に差し替えるなどの改変を行った。掲載写真は実に一四〇〇点あまりにも及び、類書にはない充実したものとなっている。また、原著にある陶磁器専門用語の中国語と英語の対照表に日本語の用語を加えたりリストを巻末に付し、読者の便を図った。

残念ながら、本書日本語版の完成を見る前に、著者葉喆民氏のご逝去されたが、学術的に価値の高いまた鑑賞的価値の高い氏の畢生の大著の日本語版をこうして刊行することができ、中国陶磁研究者として感に堪えない。今後中国陶磁の研究・愛好家に末永く読み継がれていくことを心より願うものである。

「原著者略歴」

葉喆民（ようてつみん）

一九二四年生まれ。幼い頃より父親である陶磁学者の葉麟趾教授、その後故宮博物院の陳万里、孫瀛洲両氏より陶磁史を学ぶ。中国各地の代表的な窯址の現地調査とともに、博物館が所蔵する陶磁器の鑑定なども行う。一九七五～八五年には初めて汝窯窯址を発見・認定。また北京大学ほかで中国陶磁史、中国書法史などの講義も行い、多くの学生を育てた。著書に「中国古陶磁科学浅説」「中国陶磁史綱要」「汝窯聚珍」「中国磁州窯」など多数。二〇一八年没。

「監訳者略歴」

出川哲朗（でがわ てつろう）

一九五一年生まれ。大阪大学基礎工学部物理物理学科卒業後、大阪大学文学部美学科卒業。同大学院修士課程修了。西宮市大谷記念美術館学芸員、大阪市立東洋陶磁美術館学芸員、同学芸課長を経て、現在大阪市立東洋陶磁美術館館長。著書に「明末清初の民窯」（共著）、「アジア陶芸史」（共著）など。第三回小山富士夫記念賞（平成二三年）受賞。



本書の特徴

- ◆本書は増補改訂版『中国陶磁史』（葉喆民著、2011年刊）を底本とし、同書刊行後の新たな研究成果を盛り込むためその一部に変更を加えた、新訂の日本語版である。
- ◆中国陶磁の歴史的、技術的解説にとどまらず、生活、文化、経済にも広く言及しており、中国陶磁が世界を席卷した時代の壮大な文化史として、幅広い読者層を想定した内容となっている。
- ◆中国陶磁の最新の成果を提示するべく、原著の写真図版の一部を中国内外での美術館、博物館の優品に差し替えるなどして、さらなる図版の充実を図った。掲載写真は総計1400点に及び、類書に見られない質量の画像を採録した。
- ◆日本の読者に分かりにくい箇所、最新の文献情報などについては、適宜訳注で解説や付加情報を施した。
- ◆巻末には、中国陶磁史に関する年表を付し、読者の便を図った。また「中国古陶磁用語対応表」では、「古陶磁用語」「古器種・器形」「器物の色調・色彩」「文様・意匠」「代表的な窯址」の分類ごとに主要な用語を抽出し、中国語・英語・日本語の対応表を付し、テクニカルタームの学術的整理を目指した。

※なお、日本で定着している用字に基づき、本書の書名は『中国陶磁史』としておりますが、中国の「瓷器」と日本の「磁器」はその意味を異にするため、本文では原著通りの「瓷器」「陶磁史」などの表記を採っています。

本書をおすすめします

- ◆陶磁器の愛好家・研究者
- ◆工芸史の研究者、美術系大学、美術学部
- ◆中国文化史の研究者、文学部
- ◆工業材料の研究者、理工系学部
- ◆各県・市町村の埋蔵文化財センター
- ◆各県・市町村立図書館、美術館、博物館など



『中国陶磁史』（全1巻）

【原著】葉喆民
【監訳】出川哲朗
【翻訳】徳留大輔 新井崇之

A4変型判／上製・カバー装／704ページ／オールカラー
定価：本体38,000円＋税 ISBN：978-4-336-06316-8

発行：科学出版社東京 発売：国書刊行会

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 TEL:03-5970-7421 FAX:03-5970-7427
http://www.kokusho.co.jp e-mail: sales@kokusho.co.jp



申込書

ご記入後、お近くの書店へお持ち下さい。

中国陶磁史（定価：本体38,000円＋税）を _____ 冊 注文します

お名前 _____

ご住所 _____

お電話 _____

取扱店

中国陶磁史

先史時代から現代まで、中国磁の悠久の歴史を、一四〇〇点余の図版とともに概観する大著。最新の知見を織り込んだ新訂の日本語版、ついに刊行なる！

全1巻

オールカラー

【原著】
葉喆民

【監訳】
出川哲朗

【翻訳】
徳留大輔
新井崇之

発行 科学出版社東京 発売 国書刊行会

2019年
9月刊行



年表

Table with 3 columns: 中国陶器の歴史年表 (China Ceramic History Timeline), 中国の歴史年表 (China History Timeline), and 中国の文化年表 (China Culture Timeline). It lists various historical events and cultural milestones from 1900 BC to the present.

[36% 縮小]

付録組見本



図2-1 新石器時代中期の彩陶器。左から、彩陶器の壺、彩陶器の大口甕、彩陶器の碗。彩陶器は、新石器時代中期に中国の黄河中下流地域で発達した。その特徴は、器面に赤、黒、黄、白の色素を施し、幾何学的な文様を施していることである。



図2-2 新石器時代中期の彩陶器。左から、彩陶器の壺、彩陶器の大口甕、彩陶器の碗。彩陶器は、新石器時代中期に中国の黄河中下流地域で発達した。その特徴は、器面に赤、黒、黄、白の色素を施し、幾何学的な文様を施していることである。

[36% 縮小]



図10-1 元青花花卉文の典型的特徴。1. 罐 2. 碗 3. 盤

図10-2 元青花山石文典型的特徴。4. 5. 罐

図10-3 元青花、釉裏紅瓷器に頻りに用いられる海水文(波濤文)。6. 盤型 7. 罐型

図10-4 元青花魚蓮弁文の典型的特徴。8. 9. 類

図10-5 元青花魚蓮弁文の典型的特徴。10. 類



10-11 元青花孔雀石丹文大罐 (大英博物館蔵)

10-12 元青花纏枝牡丹文獸耳蓋付罐 (1973年安徽省蚌埠東郊曹山南坡明洪武二十八年(1395)濉和墓出土)

10-13 重要文財 元青花魚藻文罐 (大阪市立東洋陶磁美術館蔵(写真 六田知弘))



10-14 元青花魚蓮弁文の典型的特徴。8. 9. 類

10-15 元青花魚蓮弁文の典型的特徴。10. 類

4. 鴛鴦、蓮花文

罐、盤、碗、瓶などには主文様が常に表されている。その特徴は荷花、荷葉を器いっぱいに配さないことである。1970年に北京旧鼓楼大街元代窖藏から玉壺春瓶が1点出土している。瓶の腹部には一対の鴛鴦が荷蓮の間を戯れている。鴛鴦の下には水波文がシンプルに描かれ非常に可愛い【図版10-16】。英国のケンブリッジ大学博物館に収蔵されている青花高足杯は、内面に鴛鴦隊蓮図が描かれ、外面には連続した纏枝蓮花文が描かれている。内外面の文様の意味は連続しており、婚姻による幸福と夫婦の調和を象徴する吉祥文様となっている。

変形蓮弁文(ラマ式蓮弁文)

変形荷花弁とも称されている。元の瓷器に一般的に見られる文様を応用したもので器の縁付近に描かれるものであり、時代的な特徴をよく表している。多くは瓶、罐、甌、水注の肩部、高台側面に描かれるほか、碗、盤、皿などの口縁の外側あるいは高台一帯に描かれる。形式は多種多様であり、太い線と細い線を組み合わせ

第二章 新石器時代における陶器の分類と編年

第一章 陶器の起源

第二章 新石器時代における陶器の分類と編年

第三章 夏商周時期の主要な製陶工芸技法

第四章 秦漢時期における陶器の発展と瓷器の出現

第五章 魏晉南北朝時期の陶器

第六章 隋代陶器の普及と向上

第七章 唐代陶器の輝きと到達点

第八章 宋代陶器の高峰

第九章 遼金西夏陶器の民族風格(民族の雰囲気)

第十章 新しい道を開いた元代瓷器

第十一章 明代陶器の斬新な様相

第十二章 清代陶器の繁栄

中国古陶器用語対応表(中一英一日)

Table with 3 columns: 中国古陶器用語 (Ancient Chinese Pottery Terms), 英語 (English), and 日本語 (Japanese). It lists various pottery types and their corresponding terms in English and Japanese.

[36% 縮小]

付録

年表

中国古陶器用語対応表(中一英一日)

第二章 新石器時代における陶器の分類と編年

第三章 夏商周時期の主要な製陶工芸技法

第四章 秦漢時期における陶器の発展と瓷器の出現

第五章 魏晉南北朝時期の陶器

第六章 隋代陶器の普及と向上

第七章 唐代陶器の輝きと到達点

第八章 宋代陶器の高峰

第九章 遼金西夏陶器の民族風格(民族の雰囲気)

第十章 新しい道を開いた元代瓷器

第十一章 明代陶器の斬新な様相

第十二章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業

第十三章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業

第十四章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業

第十五章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業

第十六章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業

第十七章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業

第十八章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業

第十九章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業

第二十章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業

第二十一章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業

第二十二章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業

第二十三章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業

第二十四章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業

第二十五章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業

第二十六章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業

第二十七章 清代陶器の繁栄

地方名窯の概況/景德鎮窯の復興と発展/清代陶器の造形と装飾/清代陶器と技術の伝播/清末民初(清代末期から民国初期)の陶器業